

# 第46期 報告書

平成24年4月1日～平成25年3月31日



平成25年4月リニューアルしたホテル立山フロントロビー

立山貫光ターミナル株式会社

## 24年度事業概況(平成24年4月1日~平成25年3月31日)

平成24年度の事業概況についてご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、海外経済の不透明な状況やデフレの影響により厳しい状況が続いたものの、後半は政権交代によるマインドの改善や金融緩和で株高、円安となり、持ち直しの傾向が見られました。

観光業界におきましては、国内で設立された格安航空会社(LCC)の運航開始、東京スカイツリーの開業、訪日外客数は史上第2位まで回復するなど旅行需要の伸びが見られました。

このような中、当期の立山黒部アルペンルートは、前年同様4月10日に、富山側は立山~弥陀ヶ原間、大町側は信濃大町~室堂間、およびホテル立山、弥陀ヶ原ホテルが営業を再開し、4月17日には、立山~信濃大町間が全線営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。

当期の営業経過におきまして、ホテル立山と弥陀ヶ原ホテルでは、昨年震災の影響が甚大であった4、5月は前年に対して大幅に回復したものの、前々年並みの回復には至りませんでした。しかし、6月に弥陀ヶ原・大日平がラムサール条約に登録されてからは、夏、秋共に好調を維持し、ホテルの宿泊収入は前々年を上回るまでに回復いたしました。一方、アルペンルートの入り込みが低調に推移したため、売店、レストランの収入は振るいませんでした。

その結果、ホテル立山の宿泊人員は、32,095人(対前年108%)、宿泊収入は対前年109%、食堂収入は対前年116%、売店収入は対前年112%、収入合計では対前年112%となりました。

また、弥陀ヶ原ホテルの宿泊人員は、15,629人(対前年119%)、宿泊収入は対前年115%、食堂収入は対前年125%、売店収入は対前年121%、収入合計では対前年117%となりました。

宇奈月国際ホテルにつきましては、4~6月は黒部峡谷トロッコ電車の営業再開延期の影響を受け大幅に落ち込み、7月以降は緩やかに回復したもののトロッコ電車営業期間中は低調に推移しました。しかし、12月以降は個人、団体共に好調に転じ、特に企画団体の伸びが顕著でありました。

これにより、宿泊人員は、24,530人(対前年97%)、宿泊収入は対前年94%、売店等を加えた収入合計では、対前年94%となりました。

この結果、当期の売上高は、ホテル立山宿泊収入6億84百万円(対前年109%)、弥陀ヶ原ホテル収入3億39百万円(対前年117%)、宇奈月国際ホテル収入4億34百万円(対前年94%)、室堂飲食及び物品販売収入9億27百万円(対前年114%)となり、これにビル賃貸収入1億76百万円(対前年101%)を加えた売上高合計は25億60百万円(対前年108%)となりました。さらに営業外収益14百万円を加えた収益合計は25億74百万円(対前年108%)となった次第であります。

次に営業費につきましては、人件費、物件費の圧縮など経営全般にわたる効率化に努めましたが、営業外費用を加えた費用合計は25億64百万円(対前年102%)となりました。

以上により、当期の経常利益は10百万円となり、これに特別損失、法人税等ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減して、当期純利益は11百万円を計上することとなりました。

### ホテル立山宿泊営業成績表（平成24年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	235	100
宿 泊 人 員	32,095	108
一日平均宿泊者数	137	108
営 業 収 入	684,122	109
宿 泊 収 入	682,061	109
雑 収 入	2,061	86
一 日 平 均 収 入	2,911	109
客 室 数	85	100
延 使 用 客 室 数	13,945	108
客 室 回 転 率	70	108
宿 泊 定 員	265	100
宿 泊 効 率	52	108

（備考）営業期間(当期)：平成24年4月10日～平成24年11月30日(宿泊日数234日)

営業期間(前期)：平成23年4月10日～平成23年11月30日(宿泊日数234日)

### 室堂飲食及び物品販売業営業成績表（平成24年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	235	100
室 堂 到 達 人 員	704,585	113
営 業 収 入	926,773	114
食 堂 収 入	275,389	118
喫 茶 収 入	101,142	115
売 店 収 入	543,059	112
雑 収 入	7,184	138
一 日 平 均 収 入	3,943	114
営業収入/室堂到達人員	1,315	101

（備考）営業期間(当期)：平成24年4月10日～平成24年11月30日

営業期間(前期)：平成23年4月10日～平成23年11月30日

### 弥陀ヶ原ホテル営業成績表（平成24年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	211	100
宿 泊 人 員	15,629	119
一日平均宿泊者数	74	117
営 業 収 入	339,043	117
宿 泊 収 入	272,638	115
雑 収 入	631	96
食 堂 収 入	36,480	125
売 店 収 入	29,295	121
一 日 平 均 収 入	1,607	117
客 室 数	52	100
延 使 用 客 室 数	6,937	120
客 室 回 転 率	64	90
宿 泊 定 員	176	100
宿 泊 効 率	42	119

（備考）営業期間(当期)：平成24年4月10日～平成24年11月6日(宿泊日数210日)

営業期間(前期)：平成23年4月10日～平成23年11月6日(宿泊日数210日)

## 宇奈月国際ホテル営業成績表（平成24年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	365	100
宿 泊 人 員	24,530	97
一日平均宿泊者数	67	97
営 業 収 入	434,017	94
宿 泊 収 入	342,918	95
追加飲食収入	30,130	89
施設利用収入	8,619	91
日 帰 り 収 入	15,270	77
売 店 収 入	32,929	96
雑 収 入	4,150	84
一 日 平 均 収 入	1,189	94
客 室 数	64	100
延 使 用 客 室 数	9,516	100
客 室 回 転 率	41	101
宿 泊 定 員	304	100
宿 泊 効 率	22	97

（備考）営業期間(当期)：平成24年4月1日～平成25年3月31日

営業期間(前期)：平成23年4月1日～平成24年3月31日

## 財産および損益の状況の推移

区 分	第 4 3 期 (平成21年度)	第 4 4 期 (平成22年度)	第 4 5 期 (平成23年度)	第 4 6 期(当期) (平成24年度)
売 上 高 (千円)	2,772,207	2,679,582	2,368,838	2,559,870
当期純利益(損失) (千円)	32,797	△60,931	△264,443	11,425
1株当たり当期純利益(損失)	36円44銭	△67円70銭	△293円82銭	12円69銭
総 資 産 (千円)	1,978,696	1,913,541	1,662,328	1,590,851

# 平成25年度の取り組み

観光業界では、価格競争と観光地間競争により、引き続き厳しい経営環境が予想されます。その中で、効率的な事業運営と収益の確保に努め、経営基盤の安定化をはかってまいります。

## 1 営業施策

セールス部門においては、ホテル3館それぞれの特徴と課題を踏まえた営業、宣伝活動を展開いたします。

ホテル立山においては、大手旅行代理店へのセールスと連携の強化、高品質商品の増販、閑散期の販売強化を進めます。

弥陀ヶ原ホテルでは、ラムサール条約登録を起爆剤にブランドの強化を推進します。ホテル立山との差別化を図り、山岳ホテルの強みを生かしたオリジナル商品の造成など販売促進に努めてまいります。

宇奈月国際ホテルについては、都市圏での販路拡大と地元セールスの強化、大手旅行代理店との連携強化、訪日旅客の受け入れをはかってまいります。

また、インターネット予約販売を強化するため、国内および海外へのきめ細やかな情報の発信、適時適切な商品の提供、予約システムの利便性を追求し、顧客の獲得に結びつけてまいります。

## 2 顧客満足度の満足、宿泊・食品の安全確保

基本的な接客姿勢の徹底をはかるとともに、各館の特徴を踏まえたサービスの向上を通じて、顧客満足度の向上を図り、リピーターの確保に努めてまいります。

また、施設設備・食品の安全には今後とも万全を尽くしてまいります。当社では、施設の日常点検と整備および食品の衛生管理と仕入食材の品質管理を徹底し、お客様に安心、信頼してご利用いただけるよう努めてまいります。

## 3 自然環境の保全

平成25年度の営業再開は、関係機関のご協力ご配慮を得て、4月10日に弥陀ヶ原ホテルが営業再開し、4月16日にホテル立山が営業を再開いたしました。営業再開にあたっては、これまで同様、早春の立山一帯における旅客の安全と自然環境保全に対する理解の周知徹底を行い、万全を期してまいりました。

また、環境に配慮した施設設備の維持更新、ごみ処理対策の徹底、美化清掃活動の推進、外来植物繁殖等への対策等、引き続き、立山の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

今後とも自然公園法の目的に添い、「自然にふれあい、自然のすばらしさを知ってもらえるよう」観光と環境保全の調和を図り、関係機関と連携して立山黒部の大自然を広く紹介してまいります。

これからも、佐伯初代社長を始めとする幾多の先人の方々の、アルペンルート創業にかけた理想と理念を受け継ぎ、積極的な誘客促進と、安全かつ満足度の高い受け入れ態勢の構築に全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

# 財務諸表

## 貸借対照表の要旨

(平成25年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>439</b>	<b>流動負債</b>	<b>112</b>
現金及び預金	346	買掛金	13
売掛金	5	未払金	20
未収金	17	未払費用	7
商品	2	未払法人税等	4
貯蔵品	42	未払消費税等	18
前払金	4	前受金	1
繰延税金資産	21	預り金	8
その他	0	賞与引当金	38
<b>固定資産</b>	<b>1,151</b>	<b>固定負債</b>	<b>417</b>
有形固定資産	954	退職給付引当金	409
建物	531	環境対策引当金	4
建物附属設備	147	長期未払金	3
構築物	81		
機械及び装置	19	<b>負債合計</b>	<b>530</b>
車両及び運搬具	8	<b>(純資産の部)</b>	
器具及び備品	47	<b>株主資本</b>	<b>1,116</b>
土地	119	資本金	900
無形固定資産	6	利益剰余金	216
ソフトウェア	5	その他利益剰余金	216
電話等加入権	1	繰越利益剰余金	216
投資その他の資産	190	<b>評価・換算差額等</b>	<b>△ 55</b>
投資有価証券	121	その他有価証券評価差額金	△ 55
関係会社株式	35	<b>純資産合計</b>	<b>1,060</b>
その他	34	<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,590</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,590</b>		

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

## 損益計算書の要旨

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位：百万円)

科目	金額
<b>売上高</b>	<b>2,559</b>
売上原価	690
<b>売上総利益</b>	<b>1,868</b>
販売費及び一般管理費	1,872
<b>営業損失</b>	<b>4</b>
営業外収益	14
営業外費用	0
<b>経常利益</b>	<b>9</b>
特別損失	0
<b>税引前当期純利益</b>	<b>9</b>
法人税、住民税及び事業税	2
法人税等調整額	△ 4
<b>当期純利益</b>	<b>11</b>

## 株主資本等変動計算書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	
		その他利益剰余金	利益剰余金合計			
		繰越利益剰余金				
当期首残高	900	205	205	1,105	△76	1,028
当期変動額						
当期純利益		11	11	11		11
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					20	20
当期変動額合計	-	11	11	11	20	31
当期末残高	900	216	216	1,116	△55	1,060

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 会社概要／役員 (平成25年3月31日現在)

●設立年月日  
昭和42年12月24日

●資本金  
9億円

●発行済株式総数  
900,000株

●株主数  
2名 立山黒部貫光株式会社  
富山地方鉄道株式会社

●役員  
代表取締役社長 佐伯 博  
専務取締役 佐川 栄  
常務取締役 営業推進部長 永崎泰雄  
取締役 川岸 宏  
取締役 技術環境部長 石谷吉孝  
取締役 総務部長 新森雅夫  
監査役 松岡 彰  
監査役 稲田祐治

※取締役川岸宏は平成25年5月10日逝去により退任いたしました。

## アルペンルートと会社のあゆみ

昭和27年 4月 1日	立山開発鉄道株式会社（TKR）設立（資本金2,500万円）
29年 8月13日	鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始
30年 7月 1日	高原バス（美女平～弘法）営業開始
31年10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始（TKR）
35年 5月 8日	立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立
39年 6月20日	高原バス全線（美女平～室堂）営業開始
8月 1日	関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始
11月 7日	TKA第34回取締役会で新会社（TKK）設立を決議
12月25日	立山黒部貫光株式会社（TKK）設立（資本金4億円）
42年12月24日	立山貫光ターミナル株式会社（TKT）設立（資本金3,000万円）
44年 5月 8日	室堂ターミナルビル建設工事着工
7月20日	黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始
12月 9日	立山トンネル貫通
45年 7月 1日	富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
7月25日	立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始
12月15日	一般自動車道 桂台～美女平間供用開始（TKA）
46年 4月25日	立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始
6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年 8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
9月 1日	ホテル立山営業開始
54年10月 1日	TKKとTKAが合併
61年 4月11日	宇奈月国際ホテル新築工事着工
62年 9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
平成 2年10月 1日	立山黒部サービス株式会社（TKS）設立（資本金1億円）
3年10月11日	弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館
6年 7月12日	弥陀ヶ原ホテル改築営業開始
12年 4月 1日	弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託
17年10月 1日	TKKとTKRが合併 (存続会社 立山黒部貫光株式会社)
21年 4月 1日	宇奈月国際ホテルTKKから経営受託

## ホテル3館のご案内

### 立山黒部アルペンルート



#### ホテル立山

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂

☎ (076) 463-3345 FAX (076) 463-3348

<http://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>



#### 弥陀ヶ原ホテル

〒930-1412 富山県中新川郡立山町芦峯寺弥陀ヶ原

☎ (076) 442-2222 FAX (076) 442-2242

<http://midagahara.alpen-route.co.jp/>

### 宇奈月温泉



#### 黒部峡谷宇奈月温泉 宇奈月国際ホテル

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉7-26

☎ (0765) 62-1236 FAX (0765) 62-1808

<http://unazukikokusai.alpen-route.co.jp/>

(編集・発行) 立山貫光ターミナル株式会社

〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36

☎ (076) 441-3331 (代表) FAX (076) 432-9056